

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホームそよ風(東)		
所在地	岐阜県可児市矢戸68番		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	平成26年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2193100050-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地から少し離れた、田園が広がる静かな環境の中にあります。同じ敷地内には小規模多機能があり、隣接して小規模特養の施設もあります。職員や利用者様同士の交流、イベントの共同開催など連携して相互に協力し合っています。母体が、医療機関であるため、利用者様の体調に異変を感じたり、急変時など素早い連携をとり、適切な処置を受けることができます。その中で、私達は、利用者様が住み慣れた地域の中で穏やかにほほえみのある暮らしが出来るように、日々、利用者様に寄り添い、利用者様の思いに気づき、考えるケアを大切にして、職員同士情報を共有し、より良いケアが出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地から少し離れ、自然豊かな環境に恵まれている。同法人が運営する小規模多機能型事業所と小規模特別養護老人施設が隣接している。医療法人の強みを活かし、適切な医療と健康管理の下で、安心して安全な生活を支援している。管理者を中心に、職員の専門性を高め、利用者の思いに気づき、考えるケアを実践している。そして、利用者が、住みなれた地域の中で、穏やかに笑顔で暮らせるように、同じ敷地内の、各施設と連携、交流をしながら、質の高いサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(東)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい位置に掲示して、ケア会議などで、職員がその理念が理解できるように説明している。ケアプランの見直し・作成時などに、利用者様の視点に立ったケアがなされているか、常に確認するようにしている。	理念は「寄り添う介護・思いに気づく介護・考える介護」の3項である。目につく場所に掲示し、会議で意義を共有している。利用者の思いを受け止め、寄り添い、その人らしい暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の福祉体験、中学生の職場体験を受け入れたり、夏祭り・秋祭りを開催して、地域の方が気軽に訪れて下さる施設づくりを目指している。また、地域の神社の祭礼時には、子供みこしが訪問してくれている。	自治会の回覧で、地域の行事情報を得て、参加をしている。事業所の夏祭りや秋祭りへは、地域住民が気楽に訪れ、地元の小・中学生の福祉体験、職場体験等の受け入れも継続をしている。自前で採れた、さつま芋を、近所の人たちと共に味わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学校の福祉体験・職場体験の受け入れをしたり、夏祭り・秋祭りは自治会を通じてお知らせして頂くなど、地域の方と交流を図り、グループホーム・認知症の方への理解を深めて頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回、小規模多機能と合同で運営推進会議を開催している。活動報告を基に話し合っている。近隣の公民館でのサークル活動なども教えて頂き、作品見学などの外出の機会を増やすことにつながっている。	隔月に会議を開催し、出席者は、行政・利用者・家族・地域関係者である。活動報告を基に、意見や情報を交換している。公民館でのサークル活動や作品見学会などの提案があり、サービス向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者・地域包括職員には、運営推進会議に毎回出席して頂き、施設の取り組みを報告している。また、活動風景の入ったそよ風だよりを基に、利用者様の姿をお伝えすることもある。必要に応じて、意見や助言を頂いている。	市には、事業所の実情やそよ風通信等で利用者の様子を報告している。又、利用者・家族の生活で困ったことなどを相談し、助言を得ている。市の派遣する「安心介護パートナー」を受け入れ、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ケア会議などで研修し、職員の理解に努めている。安全面に配慮しながら、身体拘束をしないケアに努めている。	日々、拘束の弊害を確認しながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。安全上やむなく、ベットの柵を使用する場合は、家族の同意を得て行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年次計画の中で、ケア会議において、マニュアルを使用して高齢者虐待についてホーム内研修を行っている。職員は、利用者様の心身の状況・ケアの状況を常に注意している。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	年次計画の中で、ケア会議において、マニュアルを使用して権利擁護についてのホーム内研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、利用者・家族に契約内容や、ケアに関する事業所の取り組みや理念をわかりやすく説明し理解・納得して頂いて。また、改定時には改定内容を十分に説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・家族会などを通じて、ご家族と職員とのコミュニケーションを大切にしている。家族の意見交流会では、カラオケの機械や雑巾用のタオルなど寄付の申し出を頂き、レク・作業に活用している。ご意見箱を設置し、意見や要望を気軽に職員に伝えられる雰囲気づくりに努めている。	家族会があり、年に3回の意見交流会を設けている。家族からは「希望する物や欲しい物はないですか」と、提案があり、タオルやカラオケ機器、花瓶などの寄付が寄せられている。事業運営でも、家族の意見や要望を反映させている。	提供したサービスの内容を、家族によく理解してもらい、職員の努力が伝わるように、期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や日常の勤務の中で、職員が気になることや、意見・要望があれば、代表者や管理者が個別に話し合う機会を設けている。職員の提案により、利用者様が外でくつろげるためのベンチの購入が実現している。	職員の意見・提案は、会議の場や個別面談で話し合い、確認をしている。防音対策やテニスボールの活用、写真立ての採用、要所にベンチの設置等の提案を受け、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はケア会議にも参加し、今まで培ってきた施設運営を反映できるよう現場に顔を出したり、情報収集として職員に個別に対応できるように努めている。また、キャリアアップのための研修参加を促すなど、職員に働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各自、勤務時間内に、法人内外の研修に参加する機会を設けられている。職員はお互いにスキルアップ出来るように、ケア会議で研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・キャリア形成支援事業などを活用して、経験や役職に応じた事例検討・技術・法令などを勉強する機会を持ち、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が新しい生活に早く馴染めるように、関連機関などから情報収集するとともに、見学時や、事前面談などでも本人の言葉に出せない思いも引き出せるような関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時には、施設内の雰囲気を感じて頂きながら、本人・ご家族の不安なことなどを率直に話して頂けるようゆっくりお聞きすることを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、利用者様・ご家族の思いを取り入れた短期ケアプランを作成導入して、新しい生活に安心・納得して生活して頂けるよう段階的な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事・洗濯物片付けなど利用者様に出来ることは役割分担をして手伝って頂いている。利用者様から、野菜作り・季節の行事のことなど教えて頂いたり良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、家族会・運営推進会議への参加や、かかりつけ医への受診・理美容院への付き添いなどをお願いする事もある。面会時には居室などでゆっくりとお話して頂けるよう配慮したり、日々の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚・知人の方の訪問や、隣接の施設の顔馴染みの利用者様との交流もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、職員と共に、買い物、銀行、市役所など馴染みの場所に同行して頂いている。	行きつけの美容院に出かけたり、友人や知人・親戚の訪問を受けている。職員と共に、取引銀行や市役所、馴染みの店へ出かけている。隣設の利用者とも交流して、馴染みの関係を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性について、職員同士申し送りや、記録などで情報を共有している。食事や、レク、くつろぎの時間など、利用者様一人一人が楽しく過ごせるよう職員と一緒に会話の輪に入るなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じてご本人・ご家族の経過をフォローできるよう関係者と連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、散歩・入浴時・就寝前などに、一人ひとりとゆっくり会話をする機会を設け、利用者様の思いを把握するように努めている。言葉で上手く伝えられない利用者様には、表情・しぐさなどから、思いを汲み取るよう努めている。	日頃のケアの中で、思いや意向を汲み取り、把握に努めている。会話や言葉で伝えにくい人には、表情・仕草・手や足の動きを察知し、その人らしい暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前利用施設・担当ケアマネジャーからの情報収集や、利用者様・ご家族との会話の中で利用者様のこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、介護記録・排泄チェック表等の記録を通して、利用者様一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態を全職員が把握していくよう努めている。利用者様の出来る事にも視点を向けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や日常生活の中で、利用者様・ご家族の思いをお聞きして、担当職員がケアプランを作成している。利用者様の心身状態に応じて、臨機応変にケア会議で、職員同士でケアプランを見直し検討している。	本人・家族の思いを聴き、看護師や必要な関係者の意見を取り入れ、計画に反映させている。利用者が、より良い生活が送れるように、現状に即した介護計画を作成している。職員同士で経過を検討し、随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り表・連絡ノートなどを活用して、日々の様子やケアでの気づきなどの情報を職員が共有し、ケアの工夫や実践につなげ、ケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の状況に応じて、職員が個別の必要物品の購入をしたり、水分摂取・食事量の少ない利用者様には、個別に牛乳・フルーツ缶・ポカリ等摂取しやすい物を提供するなど、その時々柔軟な支援をしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のイベントの際は、自治会にチラシを回覧して頂いたり、公民館にポスターを掲示して頂いたり、地域のボランティアグループを紹介して頂いたりするなど、地域資源を活用し、地域の方にも支援して頂けるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望されるかかりつけ医に受診して頂いている。適切な医療が受けられるように、個々のかかりつけ医と連携をとっている。必要に応じ、法人の協力医とも連携体制をとっている。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望で選択している。協力医は、月に1回の訪問診察と毎週の訪問看護がある。個々のかかりつけ医と連携をとりながら、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護により、職員は利用者様の心身状態の変化などを早い段階で相談をすることが出来、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けることが出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人全体として、入院設備のある病院とは日頃より相談員との関係作りをしている。入退院時にはご家族等の了承を得て、こまめな連絡が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時には、重度化や終末期に向けたご家族の思いをお聞きして、施設で出来ることを説明し納得して頂いている。また、家族の意見交流会を設けた際には、看取りについての指針について説明する機会を設けた。	重度化や終末期について、事前確認書に基づいて、本人や家族に説明をしている。段階的に、家族と関係者で話し合い、事業所ができることを確認している。医療法人の利点を活かし、支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命救急講習に参加し、ケア会議において緊急時の救命方法などを定期的に勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯を想定した避難訓練を消防署指導と、自主訓練で年2回実施している。隣接した3施設が、夜間非常時の連絡体制や、救助体制などの協力体制を取り入れている。また、地域の方の協力も消防団などにもお願いしている。	年に2回、夜間を想定した、避難訓練を実施している。隣接3施設と連絡・協力・救助体制をとり、備蓄や持ち出し品等の確認・点検をして、防災意識を高めている。防火自主点検表も作成している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修などを通して、職員は介護保険の理念・プライバシー保護について勉強している。利用者様の気持ちに寄り添い、トイレ誘導、食事時、入浴時など、誇りやプライバシーを損ねないようなさりげない言葉かけや、対応に努めている。	利用者の訴えを否定したり、「なぜ」を禁句にし、穏やかな言葉で語りかけている。常に、安心感をもてるように心がけ、人格を尊重し、誇りを損ねない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、言葉・表情・しぐさなどからも利用者様の思いや希望に気づくことが出来るように努めている。また、利用者様アンケートを実施して、職員が、ゆっくりと利用者様の思いを聞き出す機会を設けたりしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状態に応じて、さりげない声掛けを行いながら、一人ひとりのペースを大切にして、無理のないその人らしい暮らしを支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に協力して頂き、馴染みの理美容院に出掛けて頂いたり、その人らしい季節に合わせたおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材カット・盛り付け・配膳・片付けなど、一人ひとりが出来ることを職員と共に手伝って下さる。季節の行事や、お誕生日などその時々合った、おはぎ・赤飯・芋きんとん・たこ焼きなどを、利用者様と共に楽しみながら作って頂いたりしている。	利用者は、盛り付けや配膳、片づけなどを、自発的に関わっている。職員も一緒に食卓を囲み、見守りながら会話が弾んでいる。季節の行事や誕生会で、おはぎ・たこ焼き・芋きんとん等、手づくり料理を手伝い、皆で楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量・体重の増減など、一人ひとりの状態には常に注意している。個別に、摂取しやすい飲み物・食事形態・ふりかけ・フルーツ缶の提供など工夫している。夜間も、適宜水分補給を促している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自立度に応じて、義歯の着脱・洗浄・口腔内の衛生管理を行っている。			

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。声掛けや、見守りにてトイレでの排泄を支援している。夜間も一人ひとりの心身状態に配慮しながらトイレ誘導・見守りを行い、排泄の失敗を減らし自立を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に応じた誘導で、排泄の自立につなげている。トイレで排泄の成功体験を積み重ね、紙パンツから布下着とパッドの併用で失敗を減らし、表情が明るくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操・リハビリ体操や、身体を使うレクなどに参加して頂くよう運動への働きかけをしている。スムーズな排便のリズムが出来るよう、朝の起床後にお茶を提供したり、その方に応じて牛乳を提供するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態に配慮しながら、一人ひとりの好みの順序・時間に入浴して頂くよう配慮している。入浴時には、1対1の介助を行い、ゆったりとくつろいで頂けるよう支援している。入浴できない場合などは、足浴を楽しんで頂くなどの個々に沿った支援もしている。	檜造りの、またぎやすい浴槽と、重度者対応の特殊ベンチ浴が設置してある。一人ひとりの好みや時間に応じ、ゆったりと入浴を楽しんでいる。季節ごとに、みかん湯・菖蒲湯・ゆず湯などを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるよう、日中は出来る限り活動的に過ごして頂くよう支援している。一人ひとりの心身状態に応じて、日中も居室での休息を促す場合もあり、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容・説明については、職員が確認しやすいようにファイルして情報の共有をしている。薬の変更・追加・臨時薬などについては、その都度、記録し申し送りしている。配薬の担当者を決め、手渡しをして服薬を確認後、記録にチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事・歌レク・裁縫・野菜作りなど、一人一人の力に合わせた役割・楽しみごとに参加して頂き、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調に配慮しながら、買い物・散歩・外食などの外出をしている。個別に、花見や、モーニングに出掛けたり、ご家族や、ボランティアの協力を得て、大型スーパーや、市外まで外食に出かけている。	事業所の周囲を、日々散歩をしている。近くの神社・花見・買い物・喫茶店・外食等、希望に応じた外出を支援している。ボランティアの協力を得ながら、遠隔地の名所へ出かけている。	

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて支援している。利用者様の金銭を預かっている場合は、使途については報告して、ご家族に月に一回は使途など説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中はがきや年賀状など季節のお便りをご家族に自筆で出して頂くなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には、季節を感じて頂けるよう、カレンダーの飾りや、折り紙の作品などを利用者様と共に作成して展示している。居間のソファや、畳スペースなど日中は思い思いの場所でゆったりとくつろいで頂いている。	居間には、くつろげる長椅子や畳の間がある。壁には、季節感のある、手づくりの折り紙作品や貼り絵、見やすいカレンダーを掲示している。日中は、ゆとりのある共用の場で、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方利用者様同士でソファや食席で談笑されたり、新聞や広告を読まれたり、好きな場所に移動して日向ぼっこを楽しまれたり、その人に合った居場所を作れるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居室で居心地良く過ごせるように、ご家族との写真を飾られたり、お気に入りの洋服・帽子などをクローゼットの手に届きやすいところに置かれたり、使い慣れた椅子や家具を持ち込まれたりして、ご家族と共に工夫している。	居室には、使い慣れた椅子や家具を持ち込んでいる。家族の写真や時計、小物類を使いやすく配置し、居心地よく生活できるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状態に常に気を配り、不安や混乱が生じない環境が保たれるよう見守り、建物内部に転倒のリスクがないよう常に考慮するよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホームそよ風(西)		
所在地	岐阜県可児市矢戸68番		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年11月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(西)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を、職員誰もがみれる様に掲示し、日々のサービスに活かす為、会議の中で話し合いサービスを図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など出掛けた時は、近隣の方への挨拶をしたり、施設内を見学される方の案内だけでなく他の会話もして交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校の花いっぱい、運動、自治会御神輿等を通じて、子供たちに高齢者や認知症の方達との触れ合いの場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回小規模多機能と合同で、運営推進会議を開催している。公民館の展示物の見学や、作品作りの誘いなど助言を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者、地域包括職員には、運営推進会議に毎回参加して頂き、施設の取り組みを報告している。年2回そよ風だより(写真付)にて利用者様の状況を伝え必要に応じて助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ケア会議などで研修し日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り話し合っている。見守りをしていく中で、身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修ケア会議において、高齢者虐待防止について常に自覚を持つため発表を行っている。心身の状況、ケアの状況について、職員は常に注意している。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム研修で職員は勉強し理解をしている。成年後見制度については、必要と思われる人への活用を図っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ゆっくりと分かりやすく具体例を挙げ理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置し、意見を頂いている。また面会時や家族会等で近況報告し、意見や要望を言って頂ける関係を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議に運営者も参加しており職員の意見に耳を傾け、時にはアドバイスを頂いている。利用者様と外でくつろげるベンチの購入や、椅子の足底に古いテニスボールを活用しているのは、職員の意見や提案が実現したものである。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、今まで培ってきた施設運営を反映できる様、現場に顔を出したり情報収集を行い職員に、個別に聴き対応することを常としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、法人内外の研修に参加する機会が与えられている。研修報告をケア会議にて発表することで、職員全員が学ぶ事が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人や同業者との交流を図っている。合同研修を行い、サービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状況の把握に努めている。入居前に見学していただき、日常の様子を見ていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の今までの苦労や、愛情の深さを理解し事業所として出来る対応を話し合っている。話し合う事で、家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを確認し、必要に応じて支援、提案の相談を行い信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、四季折々の行事習わしなど、勉強させて頂く事が多くともに思いを共有しあい、支えあう関係作りができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は定期的に面会され、職員と共に家族の苦しみ喜びを受けとめ、本人の生活を共に支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた美容院へ行かれたり、友人、親戚、住み慣れた場所の近隣者の訪問などあり、住み慣れた場所との関係を途切れさせない様になっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション等気の合った方同士職員も一緒に入り孤立させない様多くの会話を持つようにしている。また職員が役割分担をし利用者同士の関係作りもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて契約終了時、情報を詳しく伝え、連携を取っている。職員は、交代でお見舞いに行き、不安を和らげる様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人との会話や希望、表情などから確認している。意思疎通が困難な方は、家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を聞き、本人の得意だった料理、裁縫、習字等など、レクレーションなど通じて、有する力を発揮しながら自分らしく生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズムを理解し、行動や、動作から、出来る事への支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ちを聞き、家族の思いや意見を反映する様にしている。会議で意見交換を行い、介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを作成し、食事、排泄等の身体的状況、本人の言葉や職員のきずき等を記載し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎が必要な支援は、柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント時、社会福祉協議会を通じボランティアの要請を行っている。地域の訪問理容を本人の体調や希望に応じて利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医のある方は、かかりつけ医と協力し通院の介助を行ったり、歯科訪問診療に来ていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護による日頃の健康管理や、医療面の相談、助言により対応を行っている。状態に変化があれば、看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より、病院の相談員とは、法人全体として、関係を取り合っており、入院された時は、家族の了承を得て、連携しあう体制が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会の席で、終末期の在り方について説明及び、質疑応答を行っており、家族からの相談や質問にその都度対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修において、必要な訓練を定期的に行っている。又職員は救命救急も交代にて訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、消防署の協力を得て、通報、誘導、消火器の使い方等の訓練並びに避難経路の確認を行っている。防火自主点検を作成し、毎日チェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、本人の気持ちを大切に、周囲の目に配慮しながら、さりげない声掛けを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望、要望に出来るだけ近付け対応できるよう努めている。又傾聴し職員に希望を言いやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や、本人の気持ちを尊重し、見守りながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の着替えは、本人に決めて頂き、希望のない方は、職員と一緒に考えて、本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、味付、盛付等、職員と一緒に準備や後片付けを行い、食事を楽しんでいただいている。畑で収穫した野菜の調理方法を一緒に考えることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や、摂取量を把握し食べやすい大きさにカットしたり、軟食量を調節したり、其の時々希望に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部介助の必要な方は、職員が介助しており、自分で出来る方も、磨き直しが無いか状態をチェックしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間のチェックを行い、個々の排泄パターンを知るよう努めている。声をかけ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んで頂いている。入浴前後、散歩後、体操後等、おやつ時間も含めこまめに水分摂取を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や、希望を確認し入浴していただいている。本人のリズムに合わせてリラックスして、入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に参加して頂ける様声掛けし、昼夜逆転せず、夜間良眠出来るよう努めている。不眠の方は、職員が寄り添い話を聞き、休息を取って頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、職員が内容を把握出来る様にしている。服薬時は、本人に手渡しせず、職員が声掛けし口に入れ服薬を確認している。本人の状態に変化が見られた時は、詳細を記録し医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の情報や、日々の観察を通じ力を発揮して頂ける様お手伝いをお願いしている。喫茶店、外食、外出など計画を立て、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて外出して買い物など支援している。また、隣接した施設の畑で、利用者様と芋を作ったり、天候の良い日は近くを散歩したりしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じて、安心や満足に向けて、所持金を持って頂ける様家族と相談し、支援している。事業所が管理している方も、外出時のお金は、本人に支払って頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をする場合、かける援助を行い、掛かって来る場合は、椅子を用意し、会話を楽しんでもらえるように支援している。携帯を所持されてる方は、日常的に家族とのやり取りをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、利用者に四季の作品を、折り紙にし掲示、鑑賞している。食事を作る音や匂い等、家庭的な雰囲気味わってもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、ダイニングテーブル、椅子等配置に配慮し、くつろげる工夫をしている。畳のスペースがあり日向ぼっこ、おしゃべり等しながら利用者同士くつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真、思い出の品等家族と相談し、持ち込まれている。危険には注意しながら、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具や個人の持ち物の配置など安全な環境で生活出来る様に配慮し、廊下やトイレは手すりを付け、又歩行時危険回避の為物を置かないようにしている。		